

第16回 道路行政マネジメントを实践する栃木県会議 議事要旨

開催日時：平成27年3月6日（金） 13：30～15：00

開催場所：宇都宮国道事務所2階会議室

出席者：早稲田大学 理工学術院 創造理工学部

|                             |            |             |
|-----------------------------|------------|-------------|
|                             | 社会環境工学科 教授 | 森本 章倫（委員長）  |
| (公社)栃木県観光物産協会 会長            |            | 新井 俊一（代理出席） |
| (株)下野新聞社宇都宮総局 局長・論説委員       |            | 飯塚 博        |
| 栃木県地区交通安全協会女性部連合会 会長        |            | 五十嵐清江（代理出席） |
| (一社)栃木県トラック協会 会長            |            | 笠原 秀人       |
| 栃木県NPO協会 理事                 |            | 高野 幸夫       |
| (一社)栃木県バス協会 会長              |            | 手塚 基文（代理出席） |
| NPO法人 eーとちぎ 代表理事            |            | 藤平 昌寿       |
| 栃木県警察本部 交通規制課長              |            | 福原 泉（代理出席）  |
| 東日本高速道路(株)関東支社宇都宮管理事務所 事務所長 |            | 金田 泰明       |
| 栃木県 県土整備部 交通政策課長            |            | 船山 通（代理出席）  |
|                             | 道路整備課長     | 岡 洋一（代理出席）  |
|                             | 道路保全課長     | 中島 堯男       |
|                             | 都市計画課長     | 大野 盛夫（代理出席） |
|                             | 都市整備課長     | 横田 英雄       |
| 関東運輸局 栃木運輸支局 支局長            |            | 御代田 晃一      |
| 国土交通省宇都宮国道事務所 事務所長          |            | 戸倉 健司（代理出席） |

議事

事故関連

- (1) 事故ゼロプランの概要
- (2) 対策の進捗状況
- (3) 事故ゼロプランの今後の展開

その他

- (4) 道路行政をめぐる最近の状況報告

## 議事要旨

### (1) 事故ゼロプランの概要

- ・意見、質疑なし

### (2) 対策進捗状況

- ・意見、質疑なし

### (3) 事故ゼロプランの今後の展開

- ・対策後、事故率が増加している箇所については、詳細を確認していないため、今後、調査および検討し、ご報告させていただく。
- ・対策後の効果評価の総合評価、中間評価については、中間評価より総合評価を厳しくしようと考えている。データを蓄えて完了基準、追加対策基準を検討し、次回の見直し基準の会議で決定したいと考えている。
- ・PDCA サイクルに基づき、総合的な視点で評価していく必要がある。
- ・自動車の高度化による事故減少のデータについては、現示時点では年数が経っていないため事故データが蓄積されていない。今後、事故と自動車の高度化の関連性については検討していきたいと考えている。
- ・社会情勢の変化の実態を調査していただき、事故との関連性を検討していただきたい。
- ・事故対策で整備する場合には、自転車の走行レーンについても考慮して検討していただきたい。

### (4) 今後のスケジュールについて

- ・次回（第17回）会議の開催は、27年の夏頃に実施を予定している。

### (5) 道路行政をめぐる最近の状況報告

- ・意見、質疑なし

### (6) その他

#### 【事故データについて】

- ・事故率算定方法は、件数を距離と交通量で割った結果である。
- ・交差点部と単路部の算出方法は同じ計算であり、交差点部は100mの距離で評価している。
- ・事故率の単位は、件/億台kmである。事故率の算出方法は全国統一算出である。
- ・事故危険区間の選定時の事故データと対策進捗状況の事故データは、対策直前のデータであり異なっているため、対策進捗状況の事故率には、100件/億台キロ未満のデータが記載されている。
- ・事故危険区間の157区間うち、対策済みは75区間、対策中は52区間、対策検討中

が30区間である。約50%が対策済である

- 事故データ（イタルダデータ）は、県道以上のデータがベースのため市道、町道については確認できない。
- イタルダとは、公益財団法人交通事故総合分析センターが県道以上の全国事故データ（事故件数や事故内容を発生箇所等）を取りまとめており、そのデータを集計している。
- より事故が多いところ早期に対策を進めていくことが事故ゼロプランである。
- イタルダデータには、気象状況についても確認可能である。死傷事故のみデータであるため物損データはない。

#### 【その他のご意見等】

- 栃木県トラック協会では、毎年、自転車の事故防止のため高齢者にヘルメットを配布しているが、使用されていない状況である。今後、使用されるようにアピールしていただきたい。
- 事業自動車の事故減少する取り組み中で、今回の会議資料は有効であるためご報告させていただきます。
- 各団体の方々のHPに交通事故情報管理システムをリンクし、県民の皆様にお知らせいただき、利用していただけるようお願いしたい。

#### 【事務局からの情報提供】

- 栃木県警では、新しいサービスとして、インターネット上の地図で県内で発生した人身事故の場所を閲覧できるシステムを運用している。
- 第15回マネジメント会議にて、話題となりました植栽の枝により信号が見づらい、交差点に繁茂している植栽により事故の要因になるという意見がありました。今後の除草計画を検討しており、緑地管理方針として郊外部については、都市部と比べ緑地が多いことから、植栽帯を撤去し、防草コンクリートなどを先行して実施している。また、職員が草刈りをしたり、ボランティア皆様にご協力をしていただいている状況である。

以上